

|              |   |
|--------------|---|
| Title        | 自分ごとで動く - 成功の宣言文 - 人間力を高め、<br>日本企業を元気にするために。「成功の宣言文」は、<br>JAISTより毎日発信！          |
| Author(s)    |   |
| Citation     | JAIST社会イノベーション・シリーズ, 8  |
| Issue Date   | 2008-03   |
| Type         | Others  |
| Text version | publisher   |
| URL          | <a href="http://hdl.handle.net/10119/4860">http://hdl.handle.net/10119/4860</a> |
| Rights       |   |
| Description  |   |

## ■ 今後の展望

「成功の宣言文」コミュニティは、JAISTを中心に、企業や教育機関、行政、医療機関、NPOなど、さまざまな枠を超えてどんどん広がっており、日々新しいメンバーが参加しています。メンバーは、従来の仲間だけでなく、外部の志を同じくする新メンバーと常に交流することで、さまざまな刺激を受け、また新たなネットワークを開拓することができます。「成功の宣言文」コミュニティは、人間力の革新の場でもあり、人脈の革新の場でもあります。

「成功の宣言文」コミュニティに参加希望の方は、s-kondou@jaist.ac.jp にメールを送信してください。



### 「知識科学に基づく科学技術の創造と実践」とは？

「21世紀COEプログラム」とは、日本に世界最高水準の研究教育拠点 (center of excellence) を形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材の育成を図るため、平成14年度から文部科学省が実施している事業。「知識科学に基づく科学技術の創造と実践」は、本学で採択された最初のCOEプログラムであり、平成15年度から始まって今年が5年目、すなわち最終年度にあたる。本プログラムでは先端科学技術の研究の場、さらに社会のあらゆる状況において、イノベーションを起こすための知識創造プロセスの研究、そして、それを担う人材としての「知のコーディネータ」「知のクリエイタ」育成に取り組んでいる。文理融合を、マテリアルサイエンス研究科(理系)と知識科学研究科(広い意味での文系)の連携プロジェクトという形で実践している点が、本COEの大きな特色である。

## JAIST 社会イノベーション・シリーズ No.8

発行 2008年3月

発行所 国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学・科学技術開発戦略センター  
〒923-1292 石川県能美市旭台1-1 知識科学研究科棟Ⅱ7階

■本誌に関するご意見、お問い合わせ

TEL: 0761-51-1839 FAX: 0761-51-1767 E-mail: coe-secr@jaist.ac.jp

本誌は、文部科学省21世紀COEプログラム「知識科学に基づく科学技術の創造と実践」の助成を得て発行しております。

JAIST  
JAPAN  
ADVANCED INSTITUTE OF  
SCIENCE AND TECHNOLOGY  
1990

北陸先端科学技術大学院大学

JAIST  
SOCIAL  
INNOVATION  
SERIES

社会イノベーション・シリーズ8

# 自分ごとで動く — 成功の宣言文 —

人間力を高め、日本企業を元気にするために。  
「成功の宣言文」は、JAISTより毎日発信！



なんだか元気がないニッポンの企業。やらされ感で仕事をしている会社員。

蔓延する閉塞感は、バブル期の成功体験により組織や個人が傲慢になり、「人間力」の革新を忘れてしまったから。この閉塞感を乗り越えるためには「知識科学」を学ぶことがスタートと考える知識科学研究科の近藤修司教授は、個人が感動した体験と目指すべき理想を宣言しあう場として、「成功の宣言文」コミュニティを運営しています。体験の異なるメンバーが毎日、宣言文を読んでコメントし合うことで、新しい出会いと共感が生まれ、「人間力」が高まっていきます。

さあ、どんどん広がる「成功の宣言文」コミュニティをのぞいてみましょう！

No.8

## 人間力アップで閉塞感を乗り越えろ！

—自分ごとで動き、改革人材の輪をつくれ—

日本の産業社会や企業は、久しく「元気がない」といわれています。その根本原因は「人間力」の欠如にあると考えられます。バブル期の成功体験により組織や個人が傲慢になり、人間力の革新を忘れていたのだ、と知識科学研究科の近藤教授は語ります。

JAISTは北陸の企業を元気にしようとさまざまな活動に取り組んでいますが、こうした活動の背景にある考え方のポイントのひとつが、「自分ごとで動き、改革の輪をつくる」こと。見て見ぬふりをするのはやめて、自分ごとで動いて改革、改善、イノベーションを進めると、動き出す仲間が見えてきます。これらの仲間が改革の輪を作っていくのです。自分が得をする、自分だけが勝つのでは輪はできません。

もうひとつのポイントは「四画面思考法」です。これは近藤教授が中心となり知識科学研究科で生み出した新しい理論と実践です。「四画面思考法」は理想、夢を語り合っ、共有化して、それを実現していくための手法です。

21世紀は自然科学のアプローチと人文科学のアプローチ、言い換えれば人間力と技術力の二刀流を柔軟に使いこ

なした問題解決能力が求められている時代です。特に今、日本を元気にするためには人間力の革新が問われています。人間力は理想を掲げて理想を実現するための挑戦力、革新力、コミュニケーション力であり、自分自身を突き動かす力ともいえます。では人間力を革新し、閉塞感を打破するためにはどうすればよいのでしょうか。

夢を実現する人間力は、「現状の姿」「ありたい姿」「なりたい姿」のギャップから革新されます。「ありたい姿」とは世のため人のために意味のある普遍的な価値が創造されている状態で、「なりたい姿」は自分のための価値が創造されている状態といえます。強い企業は「現状の姿」をしっかり把握し、理想の「ありたい姿」を描き、その間に出てくる「なりたい姿」を目標にします。これは、企業でも、行政でも、個人レベルでも同じです。「ありたい姿」について話し合える環境があったり、そうした仲間がいたりすると人や組織は元気です。それが既存のルールなどで縛られると、だんだん元気がなくなっていく。だから、大切なのは「現状の姿」「ありたい姿」「なりたい姿」を実感できるコミュニティや環境を創ることなのです。

## 「ありたい姿」を宣言してしまおう！

—「成功の宣言文」コミュニティ—

人は誰でも「ありたい姿」について、「あ、そうか」と気づいたり、感動したりすることがあります。近藤教授はこうしたお互いに感動した体験と目指すべき理想を宣言しあう場として、「知のプラットフォーム」ともいえるべき、「成功の宣言文」コミュニティを設定、運営しており、毎朝「成功の宣言文」を発信しています。「成功の宣言文」は毎日が原則。体験の異なるメンバーと一緒に宣言文を読んでコメントしあうことにより、新しい出会いと共感が生まれ、自分の持っている人間力が引き出されていきます。

これまでに発信した成功の宣言文をまとめた文庫本も出版されており、コミュニティのホームページから購入することができます。

■成功の宣言文 第一巻  
四画面思考法

著者：近藤修司  
価格：¥500 129p

■成功の宣言文 第二巻  
元気が出る俳句

著者：近藤修司  
価格：¥500 101p



### 「成功の宣言文」で人間力がパワーアップし、日本を元気に

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22  
成功の宣言文  
宣言を突破  
あこがれ  
自分に勝つ  
つぎ  
勉強せよ  
顧客第一  
ビジョン  
仕事の価値  
メモをとる  
やる  
魂の叫び  
深い呼吸  
調査技術  
シンプル  
人間力と技術力  
思考が現実をつくる  
ミス・マツチの復活  
一日一生  
整理・整頓・清掃  
楽しむ



成功の宣言文はメールで毎日届く。ホームページ上では過去の宣言文や「宣言文写真館」「革新図書館」などのコンテンツも閲覧できる。  
<http://www.success-poem.com/>

## 試してみよう！

—人間力を高める「四画面思考法」—

「成功の宣言文」のベースにあるのは、人間力を日々向上させる「四画面思考法」です。これは、「現状の姿」「ありたい姿」「なりたい姿」「実践する姿」を鮮明にし、「他人ごと」を「自分ごと」に変え、ありたい姿を自分の言葉にして、その言葉を真実にしていく思考法です。四画面は誰でも描くことができます。まずは準備から。最初に縦軸に未来(上)、現在(下)という時間軸の線を引きます。横軸に内(左)、外(右)という空間軸の線を引きます。すると4つの画面が生まれますね。これらの画面はそれぞれ、左上が「ありたい姿」、右上が「なりたい姿」、左下が「現状の姿」、右下が「実践する姿」に対応しています。中心に大きく「場」という文字を入れると四画面が完成します。



### 4画面思考による改革実践の見える化



心の動きを躊躇せずに宣言する、心の動きに大小はない

ここに自分が思うところを書き込んでいきます。はじめに「現状の姿」。ここには、今の現実はどういう状況にあるか、他人ごとでなく「自分ごと」として、その事実を鮮明に描きます。次に「ありたい姿」を書き込みましょう。これは理想であり、世のため人のために自分が貢献する姿です。そして「なりたい姿」。現状と理想を掴んだ上で、期限付きで自分や組織のために達成する目標や戦略を明らかにします。最後に「実践する姿」。現状の姿と「なりたい姿」のギャップを埋めるために、自らが日々実践している姿を描きます。

近藤教授によれば、人間はそれぞれの「場」で、この4つの姿を同時に実感することで、自分を変えて成果を実現することができるのです。どんな分野であれ、成功する人は常に頭の中の構造が四画面になっており、自分ごとで実践しているとおいいます。自分なりの四画面を描いたら、じっくり眺めてみましょう。夢を実現するためのヒントが見えてきたり、やる気が湧いてきませんか？「四画面思考」は、ビジネスに限らず、スポーツでも、芸術でも、学問でも、あらゆる分野に活用できる優れた思考法です。

### 【知識科学研究科 近藤研究室】

近藤研究室では、長年の経営コンサルティング体験と知識科学研究を融合し、人間力を向上して日本企業を元気にする研究と実践を行っています。

#### 研究室の5大研究テーマ

- ①「成功の宣言文」による人間力革新
- ②知識科学による「コンサルティング科学」の究と実践
- ③経営技術競争力の国際比較と強化戦略
- ④産学診官・NPO連携による新産業創出
- ⑤MOTプライズ(日本技術経営賞)の創出・普及研究

# STATEMENT OF SUCCESS